

植物グループ活動報告

指導者 岩波均* 白鳥保美* 武居三男* 名取陽**

植物グループでは、研究員制度第1期3年間の活動目標として、まず研究の基礎とするべく、自然豊かな諏訪地方の植物に親しみ、植物の分類・植生・生態を中心とした地域の植物誌を広く知ることとした。

具体的には、茅野市を中心とした八ヶ岳・西麓～守屋山・麓～釜無溪谷の植物相で特徴的な場所を選定して、生育期には毎月1回をめどに観察・同定・研究会を実施した。

休眠期には、諏訪の植生を知るために、広く世界的な視野からも講演会を企画し学習を深めた。素晴らしい諏訪の自然と貴重な植生の観察会について、第1期3か年の概要を記す。

1年目 2013年度

登録研究員数 24名

- 第1回 小泉山のスミレを中心とした春の植物観察会。5/11日参加者17名指導者武居三男。
雨天の為、博物館でスライド鑑賞会。春の妖精植物のスミレ魅力と分類を学習。
- 第2回 守屋山系植物採集観察調査。6/8日参加者21名指導者岩波均。
上社～杖突峠で西山の植物観察採集。生の植物の押し葉作り標本作成の学習。
- 第3回 八ヶ岳 硫黄岳垂高山植物生態観察。7/7日参加者11名指導者名取陽。
標高1800～2500mの亜高山常緑針葉樹林から森林限界まで、亜高山森林生態学習。
- 第4回 霧ヶ峰八島ヶ原高層湿原観察。7/20日参加者21名指導者諏訪教育会。
高層湿原の成立・自然環境・生態系の多様性とその調和について学習。
- 第5回 大泉山多留姫滝植相観察調査。8/24日参加者8名指導者白鳥保美。
柳川～多留姫神社叢の湿地・原野・林床・車道の多様な植相を学習。
- 第6回 縞枯山 秋の高山植物観察調査。10/12日参加者7名指導者武居三男。
紅葉期の高山植生の生態観察。縞枯れ現象の観察研究。
- 第7回 講演会 諏訪の希少植物。11/9日於博物館参加者11名講演者岩波均。
諏訪特産のヤツガタケトウヒ、アツモリソウなどの希少性について。
- 第8回 御小屋尾根 冬の亜高山帯森林観察調査。12/1日参加者10名指導者名取陽。
諏訪大社御柱林～標高1900m御小屋山の針葉樹林の生態観察と伐採材年輪標本採取。
- 第9回 講演会 赤道下高山と八ヶ岳の植物生態。1/12日参加者11名講演者名取陽。
アフリカ、アンデスの赤道下高山と八ヶ岳の高山植物の極限環境適応について。
- 第10回 御柱山樹木幹材標本の年輪測定研究。1/26日博物館参加10名指導名取陽。
諏訪大社御柱林の間伐材年輪測定により、森林の生育環境とその成立経過を研究。

2年目 2014年度

登録研究員数 18名

- 第11回 吉田山市民の森 春の植物観察調査。5/11日参加者16名指導者武居三男。
遊歩道にそって親しみやすい春の花を中心に生育分布の研究調査。
- 第12回 上社～杖突峠旧道沿いの植物観察と標本採集。6/7日参加者11名指導岩波均。
道沿いの植物観察、信州大学沖野教授による生態学的調査法受講。帰館後標本作成。
- 第13回 釜無溪谷石灰岩植生の観察調査。6/28日参加者24名指導者白鳥保美。
石灰岩植物・トダイハハコ、絶滅危惧種ツルガシワなど貴重な植物も観察調査。
- 第14回 霧ヶ峰高原自然観察会。7/19日諏訪教育界共催参加者15名指導教育会。
諏訪教育会の先生方の指導の下、霧ヶ峰の植物を中心に自然生態系の観察調査。
- 第15回 阿弥陀岳御小屋尾根亜高山針葉樹の生態観察。9/27日参加15名指導者名取。
標高変化に伴う植物の垂直的変異、昨年々の年輪測定による森林の成立過程の学習。
- 第16回 吉田山市民の森秋の植物観察標本採集。10/25日参加者13名指導者岩波均。秋晴れの下、
紅葉に親しみながら植物観察採集。博物館で種の同定と押し葉作成。
- 第17回 講演会 進化の観点で学ぶ植物形態。11/22日参加者15講演者岩波均。
「植物の形態は全て葉の変形と見なされる」ユニークな観点での興味深い内容。
- 第18回 講演会 アジア・アフリカから見た八ヶ岳の植生 12/6 参加27名講演名取。
熱帯・乾燥の植生と八ヶ岳の高山植生の環境適応をスライド写真記録から学ぶ。
- 第19回 講演会 諏訪の植物相 2/14日参加者22名講演者白鳥保美。
諏訪の身近な植物について、環境と植相の関係や特徴について学ぶ。

本年度 3年目 2015年度 登録研究員数 29名

- 第20回 竜神池から少年自然の森・春の植物観察会。

5月16日。参加者8名。指導者武居三男。

ザゼンソウ、エンコウソウ、サクラソウ、ニョイスミレ、ニリンソウ、コンロンソウ、など春の美しい妖精花や、ツリバナ、アケビなどの樹木の花もじっくり観察できた。

第 21 回 上社から杖突峠の観察と標本採集・押葉作成。

6月6日。参加者10名。指導者 岩波均。

クジラグサ、オニドコロ、ヤマタツナミソウ、イタチハギ、ハンショウズル、ササバギンランなど午後博物館にて39種同定。珍しいクジラグサ他押葉標本作り完了。

第 22 回 北八ヶ岳双子池亜高山帯植生観察調査。

6月27日。参加者12名。指導者 白鳥保美。

イワカガミ、イチヨウラン、オサバグサ、ツマトリソウ、セリバオオレン、ハクサンチドリなど林床・風衝・高山植生で希少・美花多数鑑賞。厳しい高山環境での生態も観察。

第 23 回 夏沢峠～硫黄岳・高山植生調査。

7月25日。参加者11名。指導者 名取陽。

コードラート枠（金属クギ基設）を3地点設定し出現種の被度・群度記録。コマクサ、ムシトリスミレ、イワウメ、トウヤクリンドウ、ミヤマウシノケグサ等多種出現。

第 24 回 白駒池～高見石～麦草峠の植生観察調査。

8月8日。参加者11名。指導者 武居三男。

イワノガリヤス、キソチドリ、ヒメタケシマラン、アオジクスノキ、シノブカグマ、等高山草原、亜高山林床、高山風衝で多種観察。コメツガとシラビソの生態の違いにも注目。

第 25 回 御小屋尾根・御柱山植生生態観察。

9月5日。参加者14名。指導者 名取陽。

標高変化による植生の垂直変異観察。菌根菌共生種、トラキチランの花の観察に恵まれ、その未解明の生態の不思議さ、希少さを鋭意保護監視活動中の齊藤氏から受講。一同感激。

第 26 回 秋の守屋山植物観察調査。

10月24日。参加者11名。指導者 岩波均。

守屋山登山口～山頂の紅葉を楽しみ観察、標本採集。ツルリンドウ、キッコウハグマ、オトコヨウゾメ、アブラチャン、ムラサキシキブ、サワフタギ等31種確認。押し葉作成。

第 27 回 講演会 地球環境から見た諏訪の生態系。講師 増沢武弘（静岡大学特任教授）

11月14日 P m 1：30～4：00。参加者17名（他一般多数）。

北極～南極、世界各地での実地調査による興味深い植物生態を映像記録にて興味深く講演。

第 28 回 講演会 諏訪の貴重な植物とその保護。講師 尾関雅章（長野県自然保護課）

12月5日 P m 1：30～4：00。参加者11名（他一般多数）。

長野県出前講座による、諏訪の植生の特徴とその希少性・保全活動の重要性について講演。

平成 27 年度 登録研究員

大塚 光子 大塚 敏子 桑垣 文子 井村 悦子 上原 妙子 小山 京子 宮澤 弘宣

小林 豊 奥原 聡 牛山 恵一 野崎 順子 池澤 正秀 田中 宏和 矢島 三喜子

上原 裕雄 北澤 俊弘 両角 晃一 八木橋 真知子 小林 智子 齊藤 彰夫 小林 喜久一

小林 美里 鈴木 美代子 若宮 稔美 中山 文恵 五味 岑子 宮坂 節子 青木 正美

金子 直子

【まとめ】

以上、第1期3年間で、21観察会、7講演会に延べ参加者数390名の研究員の熱心な参加を得て「諏訪地方の植物に広く親しみ、その分類・植相・生態を中心とした地域の植物誌を広く総合的に知る」第1期3年間の目標を達成することができた。

次期の第2期では、諏訪地域の特徴的な地域に重点的にスポットをあて、「植相調査・植物分類・同定・標本作成」を活動目標とすることになった。

その第1歩として、来年度2016年には、茅野八ヶ岳総合博物館に隣接して地域住民に広く親しまれている、小泉山を選定して、その生態系の多様性の基礎となる植物の観察・分類・採集・押葉標本作り・同定を開始することになった。多くの研究員の参加を得て諏訪地域の博物館の中心として、八ヶ岳総合博物館活動のさらなる発展を期すところである。